

分子から個体へ -形態形成機構の解明

私たちの体は、発生のはじめ、すなわち卵の段階では、ほぼ球体をしています。そのうち背腹方向、前後方向に分化を始めます。さらに左右対称だった臓器が非対称になっていきます。古来、その形の変遷について数多くの考察がなされてきましたが、生物学的にそのメカニズムを解明されたとは言い難い状況でした。

ところが最近、東大の廣川研究室から画期的な仕事が発表されました。脊椎動物の左右差の発生に線毛運動が関与するらしい、というものです。この仕事に精力的に取り組んできた竹田扇先生に、その着想と経緯を話していただくことにしました。竹田先生はまだ37歳の若き分子生物学者ですが、古典的な形態学・比較解剖学にも造詣が深く、浦先生のビデオ（岩手医大にて撮影・制作）も、辞書無し理解できる方です。竹田先生の、形態学と最新の分子生物学を組み合わせた仕事は、良い意味の「新しき酒を古き革袋に」の喩えそのものです。どのようにしてインスピレーションを具現化してきたかをご講演いただきます。皆様のご参集を希望します。

講演者： 竹田 扇 博士

(東京大学大学院医学研究科 細胞生物学 助教授)

日時： 平成17年10月17日(月) 午後5時30分

対象： 学部学生・大学院生・教職員

場所： 60周年記念館 3階 研修室

連絡先： 第二解剖(佐藤洋一)